



2023. 2. 11~12 第12回定期総会 議案書

◆◆◆◆ もくじ ◆◆◆◆

ページ

修正案などの提出、総会の進行について、運営委員会名簿	2
オンライン会議のルール・注意事項など	3
議案 第1号 2022年度活動報告	4
第2号 2022年度決算報告(概算)	8
第3号 2023年度活動方針	9
第4号 2023年度予算	8
第5号 規約改正① 国会議員の会費について	13
第6号 規約改正② 社会ビジョンの変更について	13
第7号 監査委員の選出	14
第8号 仲裁委員の選出	14
第9号 決議「統一自治体選挙とグローバル・グリーンズ世界大会で飛躍をめざそう」	15
第10号 委任事項の議決	15
第11号 総会特別決議(追加提案)	15

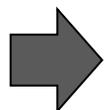
資料 ①会員の動向(入退会者数) ②都道府県本部等 ③声明・見解等 ④自治体選挙結果
⑤参議院選挙結果 ⑥本年度の選挙予定 ⑦宣伝グッズ販売状況
⑧都道府県会員・サポーター数及び議決権人数

* 決算報告(確定版)と関係資料(監査報告書、貸借対照表、損益計算書)は2月に追加提出

◆◆◆◆ プログラム ◆◆◆◆

月日	時間	内容	会場
11 (土)	(9:00~運営委員会、9:30~10:00 総会進行委員会)		完全 オン ライ ン
	10:20~	受付	
	10:30~18:30	開会/総会議事、GG世界大会 in 韓国の説明、統一選立候補予定者紹介	
	20:00~21:30	10周年企画 連続シンポジウム第3回(予定)	
12 (日)	9:00~	受付	
	9:15~12:00	総会議事/閉会	
	(13:00~15:00 地域代表協議会、15:00~運営委員会)		

★出欠・委任状・書面議決書は2/7(火)17:00までにご提出ください
★修正案提出、発言通告については、2ページをご覧ください



修正案などの提出、総会の進行について

総会進行委員会

* 今回の委員は以下の4人のみなさんをお願いします。

坂井えつ子（東京都小金井市議）、重松朋宏（東京都国立市議）、高橋智明（福島県福島市）、山田久美子（静岡県静岡市）

- ・ 総会進行委員会は議案を提案する運営委員会とは別に中立的な立場から議事の進行を行います。この委員会から議長を出し、議事の進行をサポートします。
- ・ 議長の判断を尊重し、議事の進め方に関する発言は控え、議案の内容の議論をしましょう。重要な議事進行への意見がある場合は6人の連名で総会進行委員会の開催を求めることができます。

「修正案など」の提出について

提出期限 1月23日（月）17時必着（郵送の場合のみ1月23日消印有効）

提出書類 電子データでの提出を基本とします。 *事務作業軽減のためご協力をお願いします
各提出用紙（ワードファイル）を事務局から取り寄せ、入力して提出してください

* 電子データ提出が困難でFAX・郵送等で提出の場合は**23日17時まで**に電話連絡をお願いします。

★**いずれも、連絡先（住所、電話番号、メールアドレス）以外の情報は公開となります。**

議案への修正案 一つの修正案について一枚の修正案提出用紙を提出してください。

（記載事項）1)対象議案 2)対象項目など 3)修正内容 4)修正理由（800字以内）
5)6人の提出者(総会議決権有資格者)氏名（代表者を明示）と連絡先

決議案 決議案提出用紙を提出してください。

（記載事項）6人の提出者(総会議決権有資格者)氏名（代表者を明示）と連絡先が必要です。

総会当日の発言 発言届け出用紙を提出してください。

（記載事項）1)対象議案 2)対象項目など 3)発言要旨 4)発言内容（800字以内）5)氏名・連絡先

「修正案など」の取り扱いについて

- ・ 議案修正案については1月23日の運営委員会で対応（原案を修正すべきかなど）を検討します。
- ・ 「修正案など」と対応、原案修正した場合の議案については内部連絡メールで配信し当日配布します。内部連絡メールに登録されていない会員とご希望の方に郵送します。**郵送ご希望の方は事務局までご連絡ください。**
- ・ 総会進行委員会は、この運営委員会の結果を踏まえて、総会の議事進行(時間配分等)を検討します。
- ・ 提出された「修正案など」の件数等によっては発言時間が十分に確保できない場合もあります。

■運営委員会名簿

○共同代表

中山 均／新潟県（政策部長）

橋本久雄／東京都（政治・選挙部長）

尾形慶子／愛知県（国際部長） *休職中

松本なみほ／兵庫県（気候危機チーム） *休職中

○運営委員

八木 聡／長野県（運営委員長・総務部長）

漢人あきこ／東京都（副運営委員長）

井奥雅樹／兵庫県（副運営委員長・組織部長） *休職中

星川まり／東京都（社会運動部長）

会津素子／千葉県（広報部長）

久保あつこ／北海道

宮部 彰／東京都

山田久美子／静岡県

光吉 準／岡山県（財務部長）

高橋智明／福島県

オンライン会議のルール・注意事項など

これをもとに、総会進行委員会が適宜判断して進行します。

◆参加について	議長委任	通常の会場と同様に可能です。議長は採決に加わらないため、「会議の決定に委ねる」こととなります
	個人委任	通常の会場での会議と同様、5人まで個人委任を受けることができます
	傍聴	サポーターのみ傍聴を許可します。傍聴参加者の発言には議長の許可が必要です
	名前の表示	漢字等のフルネームと（地域）を表示しましょう 最初の参加時に事務局が確認します 共同代表・運営委員は名前の前に「◆」、傍聴者は名前の前に「★」を入力します
	離席・退席	接続したまま一時離席する場合は、名前表示の前に「離席中」と表示するか、ビデオの前に表示して、お知らせをお願いします（特に採決時には離席・退席はできませんので、よろしくお願いします）
	ビデオ	可能な人は原則オンにして参加しましょう
◆会議の進行について	発言	「挙手」機能を利用して意思表示し、議長が指名します
	採決について	「投票」機能で行います。個人参加で個人委任のある方はチャットにお名前、賛否を書き込んでください。分散会場の責任者は会場ごとの集計をチャットに記載してください 採決時には最初に現数確認をします。その時点で離席（インターネット不具合も含む）の場合は電話等で参加を促し参加が難しい場合は議長委任として進行します。会場まるごと不具合の際は、電話などの代替手段で対応します
	休憩	1時間に5分程度休憩を入れましょう
◆機能の使い方	ミュート（消音）	発言するとき以外は「ミュート」にしておくようにしましょう 場合によってはホスト（事務局と運営委員）が強制的にミュートにすることがあります
	チャット	全員が相手を選んで自由に書き込むことができますが、使用は最小限にして会議に集中しましょう。チャットのデータは事務局で保存します。また、他の参加者も任意に保存できるので、そのつもりで書きましょう。チャットの記載内容は議事録には載りません。基本は音声で発言してください（マイクの調子が悪い時にはチャットを他の人に読み上げてもらうことで正式発言にすることができます）
	反応	各自の判断で自由に使いましょう
	画面共有	自分のパソコンのデスクトップのファイルなどを参加者全員の画面に表示することができます。この機能を使うときは議長の許可を得て行うようにしましょう

第1号議案 2022年度活動報告

はじめに-社会・政治情勢と重要な課題

■国際社会は混迷、奮闘する緑の党

新型コロナウイルスのパンデミックは3年目に入りました。2月24日のロシア軍のウクライナ侵攻により、生命の危険や人権蹂躞が露呈し、核兵器の使用や原発への攻撃の懸念など深刻な不安に見舞われました。資源不足やインフレによる世界的な物価上昇により国際秩序・民主主義と市民の生活は危機的状況に陥っています。

イタリア・スウェーデンで右翼政権が誕生するなど世界的に保守化傾向が見られるものの、スウェーデン緑の党やフランス左派連合（緑の党も参加）は議席を増やすなど善戦しています。

■厳しい結果となった参議院選挙

岸田政権のもと、7月に参議院選挙が行われました。生活困窮者支援と安全保障が大きな関心を集めました。与野党に明確な争点がなく、低調な選挙となり、立憲野党にとって厳しい結果となりました。

緑の党は立憲野党や市民と連携して、全国比例候補3人を含め10人の推薦などの候補者を応援し、一定の成果を収めました。

緑の党の会員である長谷川羽衣子さんがれいわ新選組全国比例の推薦候補として挑戦したことにより、他党比例名簿に会員を推薦する共通認識と決定プロセス、政策の相違、二重党籍、当選後の関わりなど党内のさまざまな課題が浮き彫りになりました。

■強行された安倍元首相の国葬

約7割の国民の反対にもかかわらず、岸田政権は安倍元首相の国葬を強行しました。法的根拠がないことや、旧統一教会との癒着の実態が解明されないまま、ごまかしと隠蔽の手続きなど、もり・かけ問題や桜の会に続き、不信や反発が国民に広がりました。

■福島原発事故から11年

ウクライナ戦争による世界的エネルギー不足・価格高騰から、世界的に原発を求める声が大きくなっています。日本政府は、「新しい原発」とうたい国民をごまかす建設推進の方針を明確にしました。

原発に頼らず、実質ゼロカーボン社会に向けた現実的政策が一層求められています。

■気候危機に全力を挙げる

本年も、気候危機対策を党の最重要課題に定め、気候危機キャンペーンチームを中心に「グリーンリカバリー+」を作成し、参議院選挙で活用しました。

また世界アクションへの参加や気候危機・自治体議員の会の事務局を担うなどの活動を行いました。

■2023年グローバル・グリーンズ世界大会 in 韓国、統一自治体選挙への準備

2023年4月の統一自治体選挙と6月の第5回グローバル・グリーンズ（以下、GG）世界大会にむけた準備の年となりました。

選挙スクールを2回開催し、計39人が受講しました。また選挙対策本部を発足させ、若者・女性を対象とした資金援助の制度をつくりました。

GG世界大会に向けてチームを発足させました。

■結党10周年を迎え、決意を新たに

新型コロナウイルスとウクライナ戦争による影響は当分収まらないと思われます。物価上昇による暮らしを守りながら、改めて原発に頼らず気候危機を回避する政治が強く求められています。

緑の党は本年結党10周年を迎えました。これを契機に理念や今後の方針を見直し、国内外の緑の党の仲間とともに、改めて誰もが安心して暮らせる社会実現に向けて決意を新たにしました。

【1】「緑」の政治理念を実現するために必要な活動の推進

1. 「ストップ気候危機」を最重要課題として取り組みました

- 1) IPCC 第2・第3の各作業部会による第6次報告書発表後に談話を発表し、日本のエネルギー基本計画の見直しや気候正義に基づく政策への転換を訴えました。
- 2) 原発事故から11年目となる3月を「脱原発・脱石炭月間」と位置づけ、国内外での約50のアクションやイベント情報を共有・発信しました。党ウェブサイトにて1月に「炭素予算計算ツール」の説明動画を更新しました。
- 3) Fridays For Future、環境NGO、気候危機・自治体議員の会と連携し、3.25、9.23の2回の世界気候アクションに取り組みました。
- 4) 参院選で気候危機対策を争点化しようとしたが、経済・雇用、社会保障、医療、福祉などの主張が目立ち、実現できませんでした。
- 5) 参院選に向け、「グリーンリカバリー+」に政治的な社会ビジョンを示しました。参院選後に（第3土曜日の）緑デーにて、気候危機・エネルギー・脱原発(脱被曝)をテーマにしたオンラインセミナーや上映会などを開催しました。

6) GGのCOP27派遣団メンバー（世界から8名）に、緑の党グリーンズジャパンのメンバーが1人選出されました。12/17の緑デーにオンラインCOP27報告を行いました。

2. 「緑」の政治理念実現のために必要な社会活動のあり方を模索しながら、NGOや市民団体と連携し、以下に取り組みました

1) 原発事故によって引き起こされた課題は、現在も多岐に亘っています。「原発事故子ども・被災者支援法」は、移動の支援、住宅の確保、定期的な健康診断、健康影響調査、医療の提供、費用負担の減免等の施策を講ずる旨定めています。しかし、具体的な支援は不十分なため、原発事故被災者への支援策の改善を求め政府交渉に（オンライン）参加しました。

理解と合意のない汚染水の海洋放出処分や汚染物質の焼却と再利用、汚染木材のバイオマス発電に対しては、市民団体と連携し学習会への参加や反対のアクションに取り組みました。

福島原発刑事裁判、各民事裁判、株主代表裁判は、2022年も継続して裁判傍聴や集会、署名活動などに参加しました。

3.11 甲状腺がん子ども基金、3.11 甲状腺がん子ども支援ネットワーク、被ばく労働者支援ネットワークに参加し支援に取り組みました。

「放射線副読本」（及び同封チラシ）の撤回、福島支援募金に取り組みました。

国内避難民の人権に関する国連特別報告者の日本訪問に貢献しました。

2) 40年越えの老朽原発廃炉訴訟への参加など、原発再稼働を認めず、原発ゼロを実現するための活動が粘り強く続けられました。政府のGX実行会議の方針、追加再稼働、運転期間延長、次世代革新炉建設等に対しては、撤回（脱原発）を求めました。

核燃料サイクルと地層処分計画への監視が続いており、市民団体等と連携して活動しました。気候対策の重要テーマでもあり、再エネ・省エネを主軸とするエネルギー政策の構築を求める活動をしました。

3) プーチンのウクライナ侵攻を批判・即時停止を求めて活動しました。ミャンマー国軍の民主運動家死刑執行、日本からの経済援助について反対しました。

9条の精神を踏み外した解釈を基に進められる軍事研究、武器取引、琉球弧（南西諸島）を中心とした軍事化、軍事費の倍増に反対しました。土地規制法・経済安保推進法の廃止を求める活動に参加しました。

これらの問題を推進する「国家安全保障戦略」改悪反対に取り組みました。

安倍元首相の国葬反対に全国で取り組みました。

4) リニア、メガソーラーなど大型開発に反対しました。地域の自然を守るさまざまな活動に参加しました。

オーフス条約や5G、プラゴミ、オーガニック給食の勉強会を開き、課題に取り組みました。

5) カジノ住民投票条例の請求（大阪）に取り組みました。

6) 「子ども食堂」の運営・支援などに取り組みましたが、子どもの貧困、格差拡大と社会保障については、十分な取り組みができませんでした。

女性の貧困、ジェンダー差別、性暴力などについて、活動をしました。

コロナ禍での食事提供や相談会など議員を中心に尽力しましたが、休業補償・給付金・生活保護などの所得保障を、個人単位・普遍主義の観点から拡充・継続する活動はできませんでした。

マイナンバー制度義務化に反対する取り組みをしました。

7) 選挙制度の課題については十分な取り組みはできませんでした。

3. 政策提言的アクション

ALPS処理汚染水海洋放出や重要土地規制基本法などのパブコメに取り組みました。東京都の太陽光パネル義務化のパブコメでは賛成が過半数を勝ち取りました。

地域により、自治体議会への陳情・請願に取り組みました。

4. 会員発プロジェクト

新たに「脱成長・気候正義プロジェクト」が加わり、現在10プロジェクトが活動しています。

5. 緑の政治思想の深化

結党10周年連続インタビュー「緑の党の原点を探る」を企画し、Youtubeで配信しました。

【2】国政選挙及び自治体選挙への取り組み

1. 国政選挙（参議院選挙）

6月22日公示、7月10日投票で第26回参議院選挙が行われました。緑の党は、比例代表では、福島みずほさん（社会民主党）、辻元清美さん（立憲民主党）、長谷川羽衣子さん（れいわ新選組推薦）の3人を推薦しました。福島みずほさん、辻元清美さんは当選しました。選挙区では7人を推薦し、2人が当選しました。

野党共闘は連合の批判などもあり、立憲民主党や国民民主党は消極的な対応で、十分には機能しませんでした。32の1人区では4議席の当選にとどまり、市民連合や野党共闘など、新しい位置づけや選挙戦略が求められています。

2. 自治体選挙

福島県知事選をはじめ9つの首長選挙において候補者を推薦しました。

自治体議員選挙では20人の候補者を推薦・支持し、8人が当選しました。

2023統一自治体選挙に向けた選挙スクール2022を開催しました。7～9月に6回講座、11月に集中講座を行い、39名が参加しました。

【3】政策の検討と深化

1. 声明・談話等の発表

政治情勢に応じて、22本の声明等を適時に発表しました。*参照:巻末資料

2. 基本政策

「グリーンリカバリー+」の冊子を作成し、配布・販売を行いました。気候危機対策に強い緑の党の存在感をアピールできているかについては課題が残りました。

動物関係の課題別政策についても会員内からチームメンバーを募り、検討に着手し、追加すべき項目や課題を整理しました。

3. 自治体政策

自治体政策集をアップデートしました。

新型コロナウイルス対策に関する議論は十分できませんでした。気候危機対策に関する議論は別途GR+チームや気候チームで進めました。

4. 政策研究・学習の場などの開催

10周年みどりのビジョンと政策を考える連続シンポジウムを2回開催しました。1回目は地域代表協議会に合わせ地域政策について、2回目は「グリーン・ニューディール」と「脱成長」について理解を深めました。

5. 憲法問題および安全保障政策

今年は十分な議論を進められませんでした。

重要土地規正法に反対する立場から、所属議員も「土地規制法を廃止にする全国自治体議員団」に参加し、情報収集を進めています。

【4】組織・財政基盤の強化

1. 会員・サポーター

気候アクション、選挙スクール、参議院選挙、自治体選挙などの活動を通して、緑の党を知った人に会員・サポーター入会を勧めました。新規会員5人、サポーター34人の入会がありました。しかし、退会者は、会員20名、サポーター53名の合計73名でした。今年度も合計34名の組織員が減少し、組織縮小に歯止めがかかりませんでした。組織強化について、抜本的な改革が急務であることを痛感しました。発信メディア(SNSなど)の強化を行いました。

2. 都道府県本部等

九州・沖縄本部・新潟県本部準備会が立ち上がりました。

隔週の組織部会議を、おおむね月1回は拡大組織部会議として、地域の活動交流、全国的活動の地域での具体化を行いました。

四半期ごとに地域の名簿担当に送られる名簿を元に会費納入を点検し、夏冬カンパの集まり状況を確認しました。

3. 地域代表協議会

2月、5月、11月にオンラインで開催しました。

4. 運営委員会

オンラインミーティングによる会議を原則、隔週で開催しました。総務部、財務部、組織部、政策部、広報部、国際部、社会運動部、政治・選挙部の8部体制を基本とし、気候危機対策に特化したチームを継続しました。

5. 事務局

- 1) スタッフは常勤・非常勤合わせて3人体制で党の事務を担いました。会計担当が本人の希望により退職し、新スタッフとなりました。
- 2) 気候危機・自治体議員の会の事務局を担いました。

6. 財政

1) 収入の部

財政の安定化は難しい状況が続いていますが、夏冬のカンパは会員・サポーターの協力で目標を達成することができました。

2) 支出の部

財政安定化基金（借入金）は完済することができました。特別基金を設け、統一自治体選挙やGG世界大会 in 韓国への取り組みを始めました。

7. 組織

1) ユース層の拡大

ヤンググリーンズジャパンが8月に正式発足しました。

7月の参院選ではヤンググリーンズが、SNS戦略・選対運営などに各地で力を発揮しました。8月の正式発足以降は、非会員も含めユース層へのアプローチを強めつつ、2023年統一自治体議員選に挑戦するメンバーを当選させる活動に集中しました。また、ベルギー、ドイツ、エジプトなどのヤンググリーンズと交流しました。

2) 女性ネットワーク

毎月の会議と交流会で、性教育、男女混合名簿、妊娠・出産と人権、議会を含む職場・社会のパワハラなどを議論しました。

3) 緑デー、政策交流会、バックアップセミナー

「緑デー交流会」を毎月第3土曜日に定例化しました。地域交流に始まり、グリーンリカバリー+や自治体政策の理解、「かくれキニシタン」「シェーナウの想い」上映会、GG世界大会の説明などを行いました。

議員政策交流会では、議会活動に直接役立つように、自衛隊、子宮頸がんワクチン、ギャンブル依存症、男女混合名簿、原発事故被災者の問題など5回実施しました。

新人議員など向けにバックアップセミナーを行いました。

8. 中長期方針

見直しは進みませんでした。

【5】広報・コミュニケーションの活性化

1. メディア等への働きかけ

政治情勢や社会情勢に合わせて積極的に発信しました。

2. 発行物

ニュースレターとメールマガジンは定期的に発行しました。

参議院選挙に合わせて、グリーンルカバリー+リーフレットを作成しました。

3. ホームページ、SNSなど

随時、情報発信を行いました。

【6】国際連携

1. 声明の発信など

3.8 国際女性デー声明では特に、紛争・戦争中のミャンマー、アフガニスタン、ウクライナに言及し、アジア太平洋緑の連盟女性ネットワーク（以下、APGFWN）のアドベントカレンダーに運営委員の漢人あきこ都議会議員がメッセージを送りました。さらに3月ゼレンスキー大統領の国会演説について談話、7月ミャンマー（ビルマ）国軍による民主活動家への死刑執行を非難する声明を発表しました。

2. GG/アジア太平洋緑の連盟（APGF）

2023年6月の韓国でのGG/APGF大会に向けて準備を始めました。

2月のオンラインによるGGプレ大会で、脱原発シンポジウムを内外合わせて5人のパネリストを迎え実施しました。

2月、APGFWN ウェビナーに漢人あきこ都議会議員が登壇しました。

3. 情報発信

ホームページ「世界のみどり」を21回発信しました。

4. 海外緑の党との交流

- 1) GG/APGFの会議やイベントの実施、情報共有のためのコミュニケーションを積極的に取り組みました。国際部・翻訳チームの強化に至りませんでした。
- 2) 海外の緑のメンバーの来日はありませんでした。

第2号議案 2022年度決算報告

第4号議案 2023年度予算案

単位:万円

単位:万円

【収入】	2022年度予算		2022年度決算(確定値)		2023年度予算(案)	
	金額	備考	金額	備考	金額	備考
会費	637	会員365人×1万×0.9(新規30人) サポーター560人×3千(新規60人) 複数段階制上乘せ 140万	5,298,000	会員319件 284万、サポーター 457件 137万、複数段階制上乘 せ 109万	586	会員330人×1万×0.9 サポーター530人×3千 複数段階制上乘せ 130万
事業収入	161	事務所使用料(都本部) 36万 NL 20万 物販 5万 イベント収入20万 選挙スクール50万 10周年ブックレット20 他 10万	1,592,713	事務所使用料(都本部) 36万 NL 29万 物販 3万 イベント収入 3万 選挙スクール49万 選挙マ ニュアル29万 Gリカバリー10万	111	事務所使用料(都本部) 36万 NL 20万 物販 5万 イベント収入50万(GG25万,新人議員活 動講座15万,その他10万)
繰越金	1,135	前期繰越し金(特別カンパ1,000含む)	11,350,745	(特別カンパ1,000含む)	64	前期繰越し金
寄付	460	活動資金カンパ 70万 夏カンパ 150万 冬カンパ 150万 気候危機CP 30万 統一地方選CPカンパ 30万 10周年カンパ30	3,609,930	活動資金カンパ 39万 夏カンパ 160万 21年冬カンパ 76万 22年冬72万 気候危機CP 9万 10周年カンパ4万	420	活動資金カンパ 60万 夏カンパ 150万 冬カンパ 150万 気候危機CP10万、GGカンパ50万
特別基金から繰入					450	統一選挙(選挙支援交付金など)300 万、GG若者等派遣50万、10周年記念 HPリニューアル50万、 動画配信強化 50万
その他の収入	30		345,639	一時借入金:30万 物販送料分など:4万	30	
計	2,423		22,197,027		1,661	
【支出】						
事務所費	237	家賃 13.6万×12月=163万 事務所費 60万 電話代 14万	2,291,453	家賃 13.6万×12月=163 諸経費 53万 電話代 12万 など	246	家賃 13.6万×12月=163万、契約更新 14万 諸経費 57万 電話代 12万
人件費	560	給与 470万(常勤1、非常勤2) 社会保険 47万 通勤費 12万 一時金 20万 退職金共済 7万	5,253,987	給与等504万(給与、健保、年 金など) 通勤費16万 退職金 共済6万など	536	給与 470万(常勤1、非常勤2) 社会保険 47万 通勤費 12万 一時金 30万 退職金共済 7万
組織活動 行動費	88	行動費 10万 APGF/GG2021、22年会費10万 GG連帯基金2020,21,22年 36万 会場:総会 2万 地域 5万×2回 協議会交通費補助 5万 会議費 5万 各部活動費 10万	573,392	行動費8万 APGF年会費9万 GG連帯基金28万 総会・地域代表など会議費10 万 その他	51	行動費 15万 APGF/GG会費4万 GG連帯基金12万 会場:地域 5万×2回 協議会交通費補助 5万 会議費 5万
CP・ イベント費	125	Gリカバリー+ 15万 10周年企画(講座、ブックレットなど)50万 統一選CP(選挙スクールなど)10万 GGブレ企画10万 気候危機CP40万 他10万	652,008	Gリカバリー印刷17万 選挙ス クール16万 選挙マニュアル22万 GGブレ企画10万など	444	10周年シンポなど14万 気候危機 CP10万 各地動画助成10万 他10万 GG(●若者等派遣50、報告集・諸経費 など50)100万 ●統一選挙(選挙支援 交付金など)300万
郵送費	70	12万×4回、総会・他	686,452	郵送費など69万	68	NL郵送費など
宣伝費	120	NL16万×4回=66万 チラシ10万 ウェブ関係20万 他	943,718	NL印刷48万 NLデザイン30万 NL経費1万 ウェブサイト関係15 万	215	NL20万×4回=80万 入会リーフ10万、 チラシ5万 ウェブ関係15万 他5万 ●10周年記念HPリニューアル50万、 ●動画配信強化50万
寄付・交付金	20	地方配分(5%還元)	158,050	地方配分(5%還元)	16	地方配分(5%還元)
借入金返済	100	財政安定化基金、一時借入れ	1,000,000	財政安定50万 一時借入50万	30	一時借入金返済:30万
その他	10	雑費	0		5	雑費
予備費	1,093	特別基金へ1000万	10,000,000	特別基金へ	50	
次期繰越金	—		637,967		—	
計	2,423		22,197,027		1,661	

* 支出の●は、特別基金をあてる

第3号議案 2023年度活動方針

はじめに一深刻化する世界経済と気候危機、 分断と対立から連携の世界へ！

■ 混迷の社会、議論なき安全保障

昨年2月から始まったロシアによるウクライナ侵略戦争は世界の混乱を招いています。原油をはじめとする商品の不足などで物価上昇と40年ぶりの高インフレにさらされ、国民生活に大きな打撃を与えています。また、台湾有事などのリスクが煽られ、南西諸島への軍事基地の建設を進めています。

こうした国際情勢を理由に政府は敵基地攻撃能力の保有を決定し、軍事予算をGDPの1%から2%に引き上げ、改憲論議を活発化させています。

■ 4月統一自治体選挙、6月グローバル・グリーンズ（以下GG）世界大会 in 韓国

私たちは地域から政治を変えるために統一自治体選挙では、選対本部を中心に全力で取り組みます。市民や立憲野党との連携を強め、推薦議員の当選をめざし、現在の緑の党にとどまらない広がりをつくります。

こうした成果をもって、6月8日から11日にかけて仁川で開催されるGG世界大会 in 韓国に参加し、世界の緑の党と連携します。

■ 気候危機と原発を重点に

気候危機対策で先進国の責任を果たそうとしない岸田政権に対して、環境NGO、世界の緑の党、気候危機・自治体議員の会などと連携し、「ストップ気候危機」を大きなムーブメントにしていきます。また政府は原発の再稼働と新增設、耐用年数制限の撤廃を決定しました。福島を経験した私たちは改めて脱原発の取り組みを強めます。

■ 飛躍の10年へのスタート

結党から10年が経ちました。会員減など課題を整理し、次の10年を飛躍の10年にするための、地域からの取り組みを強化し、世界との連携を深め、新たな行動を起こします。

【1】「緑」の政治理念を実現するために必要な活動の推進

1. 気候崩壊の回避に向けて、引き続き「ストップ気候危機」を最重要課題として取り組みます

1) 気候崩壊を回避するために、2030年までの脱石炭と再生可能エネルギーの倍増が必須ですが、岸田政権はGX（グリーントランスフォーメーション）のもとに、原発・石炭火力の温存、新設と

いったグリーンウォッシュ（嘘やごまかしの温暖化対策）を主導しており、これに対抗する気候正義・脱炭素・脱原発の大きな流れをつくる必要があります。

- 2) 「グリーンリカバリー+」・脱成長の議論を通じて、グリーンウォッシュに対抗する社会ビジョンの深化をめざします。
- 3) Fridays For Futureや環境NGOに加え、人権、平和、労働、貧困、農業、ジェンダーなど、様々な社会問題に取り組む市民や、緑の党が推薦・支持をした国会議員らにアクション参加を呼びかけることで、気候危機に取り組む主体の拡大をめざします。
- 4) 次の国政選挙に備え、気候政策を前面に掲げる候補者の育成・発掘に取り組みます。
- 5) 緑の党が呼びかけて設立した気候危機・自治体議員の会の活動に連携して、気候危機に取り組む自治体議員を増やし、活動を活性化します。特に「ストップ！気候危機 2023 統一選アクション」に積極的に参加し支援します。

2. 「緑」の政治理念実現のために必要な社会活動のあり方を模索しながら、NGOや市民団体と連携し、以下に取り組みます

1) 東京電力福島第一原発事故は収束していません。被災地域や避難者の声と向き合いながら「原発事故子ども・被災者支援法」に基づく抜本的な対策や新たな法制度の確立を求めて活動します。

避難者に対する総合的な支援、被ばくによる健康被害や放射能汚染の最小限化、区域縮小の見直し、保養、被ばく労働者の課題に取り組みます。また、汚染水の海洋放出、汚染廃棄物・汚染土壌の焼却と再利用、汚染木材のバイオマス発電に反対します。被災者・避難者の人権と生活を守る活動、関連訴訟支援を継続します。放射線教育（教職員研修含む）の監視と福島支援募金に取り組みます。

不透明な廃炉計画の抜本的見直しを求めます。

2) 原発の再稼働と40年越え老朽原発の延命、新增設を阻止し、1日も早い脱原発を求めます。MOX燃料含め余剰プルトニウムの課題に取り組みます。核燃料サイクルと地層処分計画にストップをかけ、使用済み燃料や放射性廃棄物など「核のゴミ」を監視します。「放射線汚染防止法」の制定を求めます。再エネ100%と省エネ促進を軸とするエネルギー政策の再構築を求めます。米欧など7カ国・地域がフランス南部に建設中の国際

熱核融合実験炉「ITER(イーター)」への参加に反対します。小型原子炉など次世代型革新炉開発に反対します。

3) 「9 条」「緊急事態条項」をはじめとする自民党の改憲を阻止し、立憲主義を守ります。安保関連法の発動、沖縄・辺野古新基地建設、自衛隊のオスプレイ配備や南西諸島(琉球弧)の軍事化、武器取引、武器見本市、軍事研究、敵基地攻撃能力の保有、土地規制法、経済安保推進法の施行、「国家安全保障戦略」、防衛費倍増等に反対する活動に取り組みます。東アジアの市民・NGO と連携し、交流と理解、対話による国際平和・非核化に取り組みます。

核兵器禁止条約の批准を求めます。

4) 環境と人々の暮らしを破壊し、生命を脅かす開発に歯止めをかけます。「オース条約」への加盟を求めます。リニア中央新幹線、ダム建設、メガソーラー、大型風力発電計画への反対活動、5G や AI などの新技術の持つ健康や人権問題等の課題に取り組みます。

食の安全、特に遺伝子組み換え、ゲノム編集反対と、オーガニック給食推進、種子法廃止、種苗法改定の課題に取り組みます。動物福祉や環境再生型農業など、緑の社会ビジョンの特徴的な課題に取り組みます。

マイクロプラスチック問題に留意しつつ生活ゴミを抑え、プラスチック製品の発生源抑制に取り組みます。

5) 多国籍巨大企業の利益を優先する自由貿易協定に対抗する活動と連帯し、いのちや暮らしにかかわる産業・インフラを民営化する関連法に反対します。

「カジノ解禁」に反対し、ギャンブル依存症対策に取り組みます。TPP、改定漁業法、改定水道法、マイナンバー制度について、粘り強く取り組みます。

6) 子どもの貧困、格差拡大と社会保障、差別と人権等の課題に取り組みます。

LGBTQ/SOGI、ジェンダー差別、刑法性犯罪、在日外国人、障がい者など当事者の抱える困難な状況に寄り添い、解決に向けてともに取り組みます。入管の人権問題、移民政策に取り組みます。

コロナ禍で露呈したの休業補償・給付金・生活保護など所得保障の不十分な点を、個人単位・普遍主義の観点から拡充・継続させます。女性の貧困問題の解決、医療・子育て・介護・教育などエッセンシャルワーカーの待遇改善と、現物給付サービスの拡充を求めています。

7) 高すぎる供託金問題、クォータ制による比例代表など、より民意を反映させる選挙制度改革に取り組みます。

3. 政策提言的アクション

国(省庁等)への申し入れ、パブコメ、「自治体陳情請願」などに取り組みます。

4. 会員発プロジェクト

新規発足と、全プロジェクトの活発な活動を支援します。

【2】国政選挙及び自治体選挙への取り組み

1. 国政選挙

衆議院議員の任期満了は 2025 年 11 月ですが、それ以前にも解散総選挙が行われる可能性はあります。参議院選挙は 2025 年です。

立憲野党は共闘のあり方を見直し、今から国政選挙への準備が必要です。市民によるさまざまな取り組みや立憲野党との連携を深め、国政選挙に備えます。

2. 自治体選挙

統一自治体選挙に向けた取り組みを強化します。前回は 80 名の候補者を公認・推薦などしましたが、今年の統一自治体選挙では、100 名以上の候補者を公認・推薦などをして、各地で当選を勝ち取り、緑の自治体議員を増やします。

特に、昨年創設した「若者及び女性のための自治体選挙支援金制度」を活用し、若者と女性の議員の誕生を支援します。

緑の党が呼びかけて設立した気候危機・自治体議員の会は、全国の自治体議員と立候補予定者に「ストップ!気候危機 2023 統一選アクション」を呼びかけています。この活動に積極的に参加し、「気候危機」を可視化し、未来への責任を果たしていきます。

【3】政策の検討と深化

1. 声明・談話等の発表

適切なタイミングで、声明等や個人署名論説を通して政治的立場の表明や内外の議論の活性化を図ります。

2. 基本政策

引き続き政策のブラッシュアップを進め、気候危機を踏まえた経済政策の議論も進めます。

動物関係の課題別政策の整理、女性政策についてもブラッシュアップを図ります。

3. 政策研究、学習の場の開催

政策や政治的課題に関する政策フォーラムや学習会の開催を、総会・地域代表協議会などのタイミングで検討します。

4. 憲法議論及び安全保障政策

国際人権法の観点も活かしながら提案や議論を進めます。

ウクライナへのロシア侵攻を踏まえ、国際平和に関する議論を進めます。

重要土地規制法の全面施行後の動きを注視し、「土地規制法を廃止にする全国自治体議員団」等に関わりながら対応を強化していきます。

5. 緑の政治思想の深化

緑の政治思想を広め、深化させる機会を意識的につくっていきます。各地域での取り組みも進めます。

【4】組織・財政基盤の強化

1. 会員・サポーター

- 1) 気候アクションなどの市民運動や自治体選挙などを通して、緑の党を知らせ、会員・サポーター拡大に取り組みます。新規会員30人、サポーター60人の入会をめざします。会員減少に歯止めをかけ、会員が増えるように努力します。
- 2) 発信メディア(SNS など)の強化や共感層を増やす活動(メルマガ登録推進活動など)を充実させます。

2. 都道府県本部等

- 1) 都道府県本部・準備会の新規立ち上げをめざします。
- 2) おおむね隔週の組織部会議、月1回は拡大組織部会議を開き、地域の活動交流、全国的活動の地域での具体化を行います。
- 3) 四半期ごとに、地域の名簿を元に会費の早期納入・夏冬カンパ集めを強化します。

3. 地域代表協議会

オンライン開催も視野に入れて、2月、5月、11月に開催します。

4. 運営委員会

オンラインミーティングによる会議を原則、隔週で開催します。総務部、財務部、組織部、政策部、広報部、国際部、社会運動部、政治・選挙部の8部

体制を基本とします。気候危機対策に特化したチームを継続します。

5. 事務局

- 1) スタッフは常勤・非常勤合わせて3人体制で党の事務を担います。
- 2) 気候危機・自治体議員の会の事務局を担います。

6. 財政

- 1) 収入の部
会員増を図り、財政の安定化をめざします。夏冬、統一自治体選挙、GG世界大会 in 韓国参加へのカンパを募ります。昨年設立した特別基金からの繰り入れを行います。
- 2) 支出の部
特別基金も活用しながら、統一自治体選挙、GG世界大会 in 韓国参加、HPリニューアルによる発信力強化などに取り組みます。

7. 組織

- 1) ヤンググリーンズへの支援
連携組織ヤンググリーンズジャパンの拡大(非会員も含む)を支援します。2023年統一自治体議員選に挑戦するメンバーの当選に向けて、全力を尽くします。また、ヤンググリーンズのメンバーをはじめ若者をGG世界大会 in 韓国へ派遣するために、財政援助を含め支援します。海外のヤンググリーンズとの交流を応援します。
- 2) 女性ネットワーク
毎月の会議と交流会で、ジェンダー平等に関する問題を議論し、各方面に働きかけます。
- 3) 緑デー、政策交流会、バックアップセミナー
毎月第3土曜日に定例化した「緑デー交流会」をさらに充実し、地域交流からグローバルな取り組みまで視野を広げます。
緑の議員の活動を支援するために、政策交流会とバックアップセミナーを充実します。

8. 中長期方針の見直し

現状を分析し、今後の方針となるようしっかり議論し見直します。

【5】広報・コミュニケーションの活性化

1. メディア等への働きかけ

声明・談話をはじめプレスリリースの発信を随時行います。

2. 発行物

- 1) ニュースレターを年 4 回、メールマガジンを隔週で発行します。
- 2) 街頭配布用チラシの作成は、コロナ感染の推移、社会状況を見ながら判断します。

3. ホームページ、SNS など

スマホ対応やセキュリティの向上、より見やすいホームページのリニューアルを行います。動画など配信を強化します。

【6】国際連携

1. 2023 年 GG 世界大会 in 韓国

非会員も含め多くの参加を実現します。大会ではセッションなどを開催し、特に脱原発については世界の緑の党に積極的に働きかけます。

2. GG/アジア太平洋緑の連盟 (APGF) の発展

GG/APGF の組織運営に携わります。

3. 世界の緑の党と共同行動

気候危機・脱原発・環境・平和・民主主義・民族と人権・ジェンダーとマイノリティへの差別など直面する問題に対して、世界の緑の党と連携し、共同で行動します。

4. 情報発信

ホームページ「世界のみどり」を通して、世界の緑の党の情報を発信します。

5. 海外緑の党との交流

- 1) 海外からの緑の党についての問い合わせや情報提供などに対応します。海外の情報取得や情報発信のために、国際部・翻訳チームの充実を図ります。
- 2) 海外緑の党や市民団体などと相互の信頼関係を築き、その先進的な活動を学び合う企画を実現します。緑の党のメンバー等の来日時受入れ、イベント等開催の支援、滞在中の交流・情報交換を図ります。

第5号議案 規約改正① 国会議員の会費について

<提案理由>

- (4) について：国会議員の会費負担の記載方法について、自治体議員との整合性を図るため
- (5) について：名称変更のため

<提案内容>

改正案	現規約
<p>第35条 (4) 歳費の一定割合を、会費としてこの政党の活動に支出すること。なお、詳細は別途規則に定めます。 (5) 立法事務費の使途について、この政党と協議すること。文書通信交通滞在費の使途について、この政党に報告すること。なお、両会計は、それぞれ独立会計とし、内容を公開するものとします。</p>	<p>第35条 (4) 議員報酬の2割以上を、会費としてこの政党の活動に支出すること。 (5) 立法事務費の使途について、この政党と協議すること。文書交通通信費の使途について、この政党に報告すること。なお、両会計は、それぞれ独立会計とし、内容を公開するものとする。</p>

参考：規約改正に伴う規則改正 * 総会後開催の地域代表協議会で提案予定

<提案理由>

総会において、規約第35条が改正されたことにより、「会費に関する規則」の該当箇所を改正する。

<提案内容>

改正案	現規則
<p>(国会議員の会費) 第5条 規約第35条第4号に基づき、この政党所属(会員)の国会議員の会費を定めるものとします。 2 歳費の1割以上を基準に、運営委員会と候補者で協議し決定します。</p>	
<p>(自治体議員の会費) 第6条 規約第36条第3号に基づき、この政党所属の自治体議員の会費は、年額報酬に応じて定めるものとします。 2 省略</p>	<p>(自治体議員の会費) 第5条 規約第35条第3項に基づき、この政党所属の自治体議員の会費は、年額報酬に応じて定めるものとします。 2 省略</p>

第6号議案 規約改正② 社会ビジョンの変更について

<提案理由>

社会ビジョンの変更は、現規約では、総会で議決参加者の過半数の賛成で決定することとなっています。これを3分の2以上の賛成とすることで、党内での合意をより重視するため

<提案内容>

改正案	現規約
<p>第1節 総会 (成立要件および議決)</p> <p>第14条 省略</p> <p>2 議決に関しては、第41条(規約の改廃) および第15条(2)社会ビジョンに関わる事項を除き、前項で規定する会議出席者のうち、議長委任と棄権を除く議決参加者(以下議決参加者)の過半数をもって決定とします。議決については書面をもって採決に参加することができます。</p> <p>3 社会ビジョンの変更は議決参加者の3分の2以上の賛成で決定とします。議決については書面をもって採決に参加することができます。</p> <p>4 省略</p>	<p>第1節 総会 (成立要件および議決)</p> <p>第14条 省略</p> <p>2 議決に関しては、第41条(規約の改廃)に関わる事項を除き、前項で規定する会議出席者のうち、議長委任と棄権を除く議決参加者の過半数をもって決定とします。議決については書面をもって採決に参加することができます。</p> <p>3 省略</p>
<p>(付議事項)</p> <p>第15条 次の各号に定める事項は、総会で決定しなければなりません。</p> <p>(1) 本規約の制定および改廃に関する事項</p> <p>(2) 社会ビジョンの制定および改廃に関する事項</p> <p>(3) 活動の報告および方針ならびに予算および決算に関する事項</p> <p>(4) 共同代表、運営委員、および監査委員の選出・解任に関する事項</p> <p>(5) 運営委員会で総会に付議することが決定された事項</p> <p>(6) 総会出席者の5分の1の賛成を得た事項</p> <p>(7) 基本政策に関する基本的事項。ただし、その細目はこの限りではありません</p> <p>(8) その他必要な事項</p>	<p>(付議事項)</p> <p>第15条 次の各号に定める事項は、総会で決定しなければなりません。</p> <p>(1) 本規約の制定および改廃に関する事項</p> <p>(2) 活動の報告および方針ならびに予算および決算に関する事項</p> <p>(3) 共同代表、運営委員、および監査委員の選出・解任に関する事項</p> <p>(4) 運営委員会で総会に付議することが決定された事項</p> <p>(5) 総会出席者の5分の1の賛成を得た事項</p> <p>(6) 基本政策に関する基本的事項。ただし、その細目はこの限りではありません</p> <p>(7) その他必要な事項</p>

第7号議案 監査委員の選出

伊東亜子 東京ブロック 東京都
内藤繁 南関東ブロック 神奈川県

第8号議案 仲裁委員の選出

渡辺さと子 四国ブロック 香川県
柴垣顕郎 北信越ブロック 長野県
吉野信次 南関東ブロック 千葉県

<予備委員>

高橋たか子 東海ブロック 静岡県

第9号議案 決議

統一自治体選挙とグローバル・グリーンズ世界大会で飛躍をめざそう

昨年の参議院選挙の結果は、一昨年の衆議院選挙に続き、自民党が圧勝し、改憲勢力が3分の2を超えました。立憲野党は大きく議席を減らし、私たちが求めている気候危機は選挙の争点にならず、与野党の違いが不明確な選挙でした。

岸田政権の気候危機対策は、COP27に首相が参加しないなど削減目標を達成する意欲がないだけでなく、石炭火力発電所の新設を含むグリーンウォッシュ（ごまかし）を行い、原発長期利用、回帰を明確にしました。また敵基地攻撃能力（反撃能力）を確保し、財源の目処が立たないまま防衛費GDP2%を目標に掲げるなど、私たちのめざす社会とは真逆の方向に進んでいます。

このような状況の下、本年4月に統一自治体選挙が行われます。私たちは昨年から選挙スクール開催、自治体政策の見直し、選対本部の立ち上げなど準備を行ってきました。初めての試みである「若者及び女性のための自治体選挙支援金」など、いままでにない応援体制をとっています。4年前は約80人でしたが、今回は100人以上の公認・推薦等と当選をめざします。

また、自治体からの気候危機対策を前進させるために、気候危機・自治体議員の会の「ストップ！気候危機2023 統一選アクション」に連携して盛り上げていきます。私たちの足元からから緑の社会へ変えていくことに全力をあげます。

本年6月に第5回グローバル・グリーンズ世界大会が韓国の仁川で行われます。気候危機対策やロシアのウクライナ侵攻による世界的なエネルギー不足、物価高に対応するために、世界の緑の党の仲間との情報交換やアクションが必要になっています。統一自治体選挙で一人でも多くの議員を誕生させ、その成果をもって韓国大会に臨みます。現地会場での参加及び今大会からの試みである日本でのオンライン参加者を含めて、多くみなさんに参加を呼びかけます。

緑の党グリーンズジャパンは結党10周年を迎えました。党をとりまく状況は大変厳しいですが、私たちは、統一自治体選挙とグローバル・グリーンズ世界大会の2つのビッグイベントを足がかりに、2023年を飛躍の10年のスタートの年にします。

第10号議案 委任事項の議決

1. 本総会で可決成立した各号議案について、議決の主旨の範囲内に限り、字句の訂正または条番号などの整理については運営委員会に委任します。運営委員会は、訂正または整理を行なった場合には地域代表協議会に報告し、会員にも周知します。

第11号議案 総会特別決議

* 当日配布

総会前に内部連絡メールで骨子を配信します。

<資料>

① 会員の動向 2022年1月～12月

	2021.12.31	入会者数 (前年度)	退会者数 (前年度)	2022.12.31	増減 (前年度)
会員	334	5 (11)	20 (27)	314	20 減 (21 減)
サポーター	504	34 (40)	53 (68)	490	14 減 (23 減)
計	838	39 (51)	73 (95)	804	34 減 (44 減)

② 都道府県本部等

茨城県本部準備会／埼玉県本部準備会／東京都本部／千葉県本部／神奈川県本部／長野県本部／新潟県本部準備会／静岡県本部／東海本部（岐阜県、愛知県、三重県）／京都府本部（京都府、滋賀県、奈良県）／大阪府本部／兵庫県本部／九州沖縄本部（2022.12.31 現在 本部 10、準備会 3）

③ 声明・見解・談話

基本理念や基本政策に基づき、政治的なテーマなどについてコメントを発表しました。

【声明】 重要な政治的課題や事件についての対外的なアピール

【見解】 重要な政治的課題や事件についての立場や考え方

【論説】 解説的な要素も含めて課題について論じるもの

【談話】 即時性を重視し、個人または連名で明らかにする立場や考え方

2/25 【談話】 ロシア軍によるウクライナ攻撃の即時停止と平和的解決を

3/01 【談話】 IPCC 第2作業部会第6次評価報告書の発表を受けて～政府は「2030年脱石炭」と「途上国への補償」で先進国の責任を果たせ～

3/07 【声明】 ロシア軍によるウクライナへの原発攻撃の即時停止を

3/08 【声明】 国際女性デーにあたり ～紛争や戦争の下で苦しむ女性がいけない世界を目指して～

3/11 【声明】 11年目の「3.11」-進行する危機を前に、脱原発と社会の転換への決意をあらたにします-

3/23 【声明】 ゼレンスキー大統領の国会演説について

4/12 【談話】 IPCC 第3作業部会第6次評価報告書の発表を受けて～政府は「炭素税ベーシックインカム」や「公正な移行」の議論を始めよ

5/03 【声明】 日本国憲法施行から75年 -平和と憲法を脅かす深刻な危機の中で、「緑の政治」の実現を-

6/02 【声明】 札幌地裁が泊原発の運転差止を命じる -原発政策からのすみやかな撤退を

6/23 【声明】 第26回参議院選挙にあたって～暮らしと人類の未来を守る政治への転換を！

7/01 【声明】 生業訴訟最高裁判決を受けて～一国の政治的責任は何人も否定できない 被害者救済と、原発政策からのすみやかな撤退を

7/09 【談話】 安倍元首相銃撃死の報を受けて -言論の自由こそ平和と民主主義の根幹-

7/12 【談話】 第26回参議院選挙を受けて

7/21 【声明】 安倍元首相の「国葬」と弔意の強制こそ「民主主義への挑戦」

7/28 【談話】 緑の党設立から10年 -結党宣言がめざす社会や私たちのあるべき姿の実現をめざして-

7/29 【声明】 ミャンマー（ビルマ）国軍による民主活動家への死刑執行を強く非難し、日本政府に国軍への支援停止と毅然とした対応を求めます

8/15 【談話】 戦後77年を迎えて

9/17 【論説】 GX 会議の原発推進方針に反対します

9/26 【声明】 安倍元首相の国葬にあらためて強く反対します

10/13 【声明】 原発運転期間「原則40年」ルール削除に抗議します - 3.11の原点を忘れることは許されない -

11/30 【声明】 COP27 閉幕を受けて 気候危機対策に逆行する岸田政権に抗議します

12/18 【声明】 軍事大国への大転換を許さない - 「安保3文書」閣議決定の撤回を求めます

* 他、21件、市民団体等の声明や行動について賛同を表明しました。

④ 自治体選挙結果

会：会員、サ：サポーター、非：非会員

NO.	月日	都道府県	名前	自治体(選挙区)名	結果	推等	会	現新
1	2/13	東京都	清原 おさむ	町田市長選	残念	推薦	非	新人
2	3/27	東京都	池田いづみ	清瀬市長選	残念	推薦	非	新人
3	4/17	埼玉県	いのまた和雄	久喜市議選	当選	推薦	会	現職
4	4/17	静岡県	八木まさる	藤枝市議選	当選	推薦	サ	現職
5	4/17	東京都	吉田健一	練馬区長選	残念	推薦	非	新人
6	5/22	東京都	酒井直人	中野区長選選	当選	支持	非	現職
7	5/22	千葉県	山崎康史	野田市議選	残念	推薦	サ	新人
8	5/29	新潟県	片桐なおみ	新潟県知事選	残念	推薦	非	新人
9	6/19	東京都	岸本さところ	杉並区長議選	当選	推薦	非	新人
10	6/19	東京都	山本ようすけ	立川市議選	当選	推薦	会	現職
11	9/4	兵庫県	井奥 まさき	高砂市議選	残念	公認	会	現職
12	9/4	沖縄県	新垣重雄	石垣市議選	残念	推薦	サ	現職
13	9/18	新潟県	佐藤 ひろし	胎内市議選	当選	推薦	サ	元職
14	7/3	新潟県	鈴木 映	新潟市長選	残念	推薦	非	新人
15	10/23	千葉県	内山隼人	匝瑳市議選	当選	推薦	サ	現職
16	10/13	福島県	草野よしあき	福島県知事選	残念	推薦	非	新人
17	11/6	東京都	よだ かれん	新宿区長選	残念	支持	非	新人
18	11/13	千葉県	増田 かおる	松戸市議選	当選	推薦	サ	現職
19	12/2	茨城県	玉造順一	茨城県議選	当選	推薦	非	現職
20	12/2	茨城県	うの のぶこ	茨城県議選	当選	推薦	非	新人

⑤ 参議院選挙結果 7月10日投開票

NO.	選挙区	名前	所属	結果	推等	現新
1	比例代表	福島みずほ	社会民主党	当選	推薦	現職
2	比例代表	辻元清美	立憲民主党	当選	推薦	前衆
3	比例代表	長谷川羽衣子	れいわ新選組推薦(緑の党会員)	残念	推薦	新人
1	宮城選挙区	小畑仁子	立憲民主党	残念	推薦	新人
2	神奈川選挙区	あさか由香	日本共産党	残念	推薦	新人
3	神奈川選挙区	水野もところ	立憲民主党	当選	推薦	新人
4	新潟選挙区	森ゆうこ	立憲民主党	残念	支援	現職
5	長野選挙区	杉尾ひでや	立憲民主党	当選	推薦	現職
6	兵庫選挙区	相崎佐和子	立憲民主党	残念	推薦	新人
7	大阪選挙区	たつみコータロー	日本共産党	残念	推薦	前職

⑥ 2023年改選をむかえる自治体選挙

会：会員、サ：サポーター、非：非会員

NO.	月	都道府県	名前	自治体(選挙区)名	会
1	4月	北海道	江川 あや	旭川市議選	サ
2	4月	北海道	斉藤 うめ子	二七〇町議選	会
3	4月	栃木県	いでい 昌子	宇都宮市議選	会
4	4月	埼玉県	川口 けいすけ	川越市議選	会
5	4月	東京都	岩瀬 たけし	練馬区議選	非
6	4月	東京都	山本 あけみ	杉並区議選	サ

7	4月	東京都	奥山 たえこ	杉並区議選	サ
8	4月	東京都	ひわき 岳	杉並区議選	サ
9	4月	東京都	そね 文子	杉並区議選	サ
10	4月	東京都	奥田 雅子	杉並区議選	非
11	4月	東京都	奈須 りえ	太田区議選	サ
12	4月	東京都	保坂 のぶと	世田谷区長選	非
13	4月	東京都	金井 えり子	世田谷区議選	サ
14	4月	東京都	ふせ 由女	清瀬市議選	サ
15	4月	東京都	橋本 久雄	小平市議選	会
16	4月	東京都	野村 羊子	三鷹市議選	サ
17	4月	東京都	加藤 功一	狛江市議選	サ
18	4月	東京都	山崎 陽一	羽村市議選	非
19	4月	千葉県	小田川 あつ子	白井市議選	会
20	4月	千葉県	会津 素子	成田市議選	会
21	4月	千葉県	石井 敏宏	館山市議選	サ
22	4月	千葉県	佐藤 剛	鎌ケ谷市議選	会
23	4月	神奈川県	大野 トモイ	横浜市議選	サ
24	4月	新潟県	中山 均	新潟市議選	会
25	4月	石川県	くまの もりお	金沢市議選	サ
26	4月	静岡県	杉山 あつし	静岡県議選	サ
27	4月	静岡県	平野 けん	沼津市議選	サ
28	4月	静岡県	山下 ふみこ	沼津市議選	会
29	4月	静岡県	江本 浩二	沼津市議選	会
30	4月	静岡県	中田 ひろゆき	吉田町議選	サ
31	4月	岐阜県	小森 忠良	岐阜市議選	サ
32	4月	愛知県	岡田 耕一	豊田市議選	サ
33	4月	愛知県	石川 翼	安城市議選	非
34	4月	京都府	吉高 ゆかこ	京田辺市議選	サ
35	4月	大阪府	ののうえ 愛	大阪府議選	サ
36	4月	大阪府	高木 りゅうた	高槻市議選	サ
37	4月	大阪府	木村 真	豊中市議選	サ
38	4月	兵庫県	丸尾 まき	兵庫県議選	会
39	4月	兵庫県	よつや 薫	西宮市議選	サ
40	4月	兵庫県	山口 みさえ	芦屋市議選	非
41	4月	兵庫県	高橋 ひでのり	神戸市議選	サ
42	4月	兵庫県	あわはら 富夫	神戸市議選	非
43	4月	兵庫県	小林 るみ子	神戸市議選	非
44	4月	岡山県	大塚 愛	岡山県議選	サ
45	4月	岡山県	鬼木 のぞみ	岡山市議選	会
46	4月	香川県	植田 まき	香川県議選	サ
47	4月	香川県	太田 あゆみ	高松市議選	サ
48	4月	大分県	守永 信幸	大分県議選	サ
49	4月	大分県	原田 孝司	大分県議選	サ
50	8月	福島県	へびいし 郁子	郡山市議選	会
51	9月	愛知県	諸岡 えみ	小牧市議選	非

⑦宣伝グッズ販売状況 2022.12.31

品名		製作数	在庫数	製作費	入金額			未納額
					~2021	2022	計	
ニュース レター	41号	11,500	1,704	172,590		68,700	68,700	3,000
	42号	11,500	1,572	206,030		72,800	72,800	2,500
	43号	11,500	2,462	200,090		62,000	62,000	2,000
	44号	10,500	1,844	200,750		52,500	52,500	7,000
ポスター	2015版(1種)	2,500	476	410,400	97,050	600	97,650	0
	2018版(3種)	1,500	919	332,660	78,150	9,300	87,450	0
のぼり(3種)		615	130	515,767	412,700	12,000	424,700	2,000
選挙マニュアル (2022年増補版セット含む)		900 (増補版550)	331 (増補版298)	548,360	438,000	290,200	728,200	46,600

⑧ 2022 年度都道府県別会員数の変化及び総会で議決権を有する会員数

クマ1月監	dℓkmGHz大正	2022/1/3 第hPa			2023/1/2 第hPa		
		㊦㊧㊨	㊩㊪	㊫㊬	㊦㊧㊨	㊩㊪	㊫㊬
		mA			mA		
		㊦㊧㊨	㊩㊪	㊫㊬	㊦㊧㊨	㊩㊪	㊫㊬
昭和MBkm	昭和MBkm	11	13	24	11	16	27
キヨ昭和	享纏	4	7	11	4	7	11
	榎AU	4	13	17	4	11	15
	乞乗 ㊩ ㊪ ㊫ ㊬	2	8	10	2	8	10
昭和バニキヨ	傲仟	5	22	27	5	19	24
	痕纏 ㊩ 兜乾 ㊩ 侑kHz	7	16	23	7	16	23
勢バニキヨ	焼卵	25	31	56	21	34	55
	2日何㊩	26	46	72	22	48	70
	㊩剥	6	10	16	5	9	14
キヨ6点	キヨ6点	63	100	163	65	98	163
キヨMB	併沃	19	31	50	17	31	48
	キヨMB (㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿)	19	27	46	15	28	43
昭和pc少	㊩㊪㊫	15	12	27	15	11	26
	㊩ ㊪	16	9	25	15	8	23
	昭和知 (㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿)	4	8	12	4	8	12
KM名	㊩㊪	26	31	57	24	31	55
	6点dℓ (㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿)	14	29	43	13	27	40
	㊩㊪	20	23	43	19	22	41
	㊩㊪㊫	3	0	3	2	0	2
㊩㊪㊫	㊩㊪	7	9	16	7	8	15
	milAU	7	5	12	7	3	10
	㊩㊪ ㊩㊪ ㊩㊪	1	3	4	1	2	3
	㊩㊪㊫	2	2	4	2	2	4
㊩㊪㊫	㊩㊪ ㊩㊪	2	7	9	3	7	10
	㊩㊪ ㊩㊪	2	4	6	2	3	5
㊩㊪㊫ ㊩㊪㊫	㊩㊪	10	14	24	9	13	22
	㊩㊪ ㊩㊪	9	11	20	8	10	18
	㊩㊪	1	2	3	1	2	3
	㊩㊪	0	1	1	0	1	1
	㊩㊪	0	2	2	0	2	2
	㊩㊪AU	2	1	3	2	1	3
	㊩㊪	0	4	4	0	4	4
㊩㊪㊫	332	501	833	312	490	802	
MB15点	2	0	2	2	0	2	
Pam ³	334	501	835	314	490	804	